

平成 30 年 6 月 27 日現在

機関番号：33905

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K21495

研究課題名(和文) 中世における仏教的春日信仰の展開をめぐる研究 中世都市奈良の一切経会を中心に

研究課題名(英文) Study of Buddhistic Kasuga Worship in Middle Ages

研究代表者

船田 淳一 (Funata, Junichi)

金城学院大学・文学部・准教授

研究者番号：90571951

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：この研究は、中世の仏教的春日信仰の諸相を明らかにするために、中世都市奈良の葬送を担った白毫寺の春日信仰に注目した。同寺を代表する儀礼である一切経会は、春日社のそれに倣いながらも、春日神による死者救済を目的とするもので、死穢を忌避しないことが特徴である。三年の研究期間における文献史料を中心とする調査で、白毫寺の葬送儀礼の次第書や、春日社一切経会における真言僧の作法書、さらに中世真言宗における春日信仰の実態を窺える史料などを発見し、複数回にわたる学会発表を行い、論文を作成した。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to clarify a Mixture of Buddhism and Shintoism of medieval Kasuga Worship. So I focused on Byakugoji 白毫寺 in medieval city nara. The duties of this temple was a funeral and cemetery management. This temple performed special rituals that it called Issaikyoe 一切経会. Issaikyoe was a ritual of Byakugoji that Kasuga Daimyojin 春日大明神 salvation of the soul of the dead. At that time, Kasuga Daimyojin do not evasion pollution of death. During this three years project, I conducted an investigation in various places. Along with that, I have found a number of documents. As one example, I list the following. Mujoshugansaho 無常呪願作法, Dabiryakusaho 荼毘略作法, Kasuga Issaikyo Tendokusaho 春日一切経転読作法, Kasuga Daimyojin Sonzoku 春日大明神尊像図, Koga Shinkan Kasuga Origami 興雅親翰春日折紙, and so on. Many historical facts were revealed. The results of the project have been made public in academic papers and presentations.

研究分野：日本中世宗教思想史

キーワード：春日信仰 一切経 葬送 儀礼 神仏習合 白毫寺 真言宗 奈良

1. 研究開始当初の背景

(1) 中世における神仏習合研究は、近年、長足の進歩を遂げた。そして中世春日社においても、解脱房貞慶を中心に具体的な解明作業が行われ、多くの成果が発表されている。

(2) 中世前期(院政期～鎌倉期)に研究が集中する傾向が見受けられるため、今後は南北朝期から中世後期(室町期)に射程に入れてゆく必要がある。

(3) 春日社 興福寺という関係性の中で議論がなされがちであったという傾向も存するので、また別の春日信仰の拠点となっていた場に光を当ててみる必要も認められる。

(4) 神仏習合研究は、思想書の分析のみに依拠するのではなく、儀礼などの実践面からアプローチする試みが注目されている。春日信仰についても儀礼資料への分析研究が望まれる状況にある。

2. 研究の目的

(1) 既にこれまでの研究で、その重要性を認識していた、中世春日信仰の担い手である白毫寺と、同寺で勤修されていた一切経会という春日信仰に深く関わる神仏習合儀礼について、更に詳細な調査・研究を実施する。

(2) 白毫寺の一切経会は、春日大明神による死者の亡魂の救済を祈願する儀礼であり、同寺は中世都市奈良の葬送を担う墓寺であった。そうした諸前提に基づく白毫寺一切経会では、春日神は死穢を忌避しないのである。そうした特殊性を闡明するためにも、他の寺社で行われた一切経会についての情報を収集し、さらには平安・鎌倉期の一切経会の全体像をある程度、把握しておかなくてはならないし、奈良の墓寺として中世都市市民の死生観と深く結びついた白毫寺の葬送活動の実態解明も要請される。

(3) 白毫寺一切経会が、先行する春日社の一切経会に倣って創始されたことは疑いがないので、春日社一切経会についても研究の手を広げると共に、白毫寺は真言宗を兼学する律院であるので、興福寺(法相宗)ではない、中世真言宗における春日信仰の在り方も射程に収め、そうした広がり中で白毫寺における春日信仰の問題を位置付けてゆく。

3. 研究の方法

(1) 白毫寺では中世以来の一切経会は既に廃絶しており、春日信仰との繋がりを示す文献資料も、近代における神仏分離の余波で無住の状態となったこともあって、伝来していない。上記の目的を達成するためには、広く外部の寺院や諸機関等に資料調査の手を広げる他はない。具体的な調査について以下に摘記する。

【2015年(平成27)】

高野山大学密教文化研究所で、同大学助教の坂口太郎氏のご協力を得て、2度の資料調査を行った。

近畿大学教授の藤巻和宏の研究グループに加えていただき、菅原山宝珠院(大阪市)の資料調査に同行して、関係資料の有無を確認した。

【2016年(平成28)】

上野学園大学日本音楽史研究所で、1度の資料調査を行った。

龍谷大学図書館にて、2度の資料調査を行った。

叡山文庫(大津市)にて、1度の資料調査を行った。

神奈川県立金沢文庫にて、1度の資料調査を行った。

【2017年(平成29)】

国文学研究資料館にて、1度の資料調査を行った。

高野山大学密教文化研究所、で同大学助教の坂口太郎氏のご協力を得て、1度の資料調査を行った。

(2) 調査を通じて発見・確認できた新資料を、可能なものは複写・撮影した上で分析を行い、それに基づく口頭発表や論文の作成を行った。

4. 研究成果

(1) 高野山大学密教文化研究所における資料調査によって、『無常呪願作法』や『茶毘略作法』といった中世の白毫寺における葬送で実用された儀礼次第書を確認し、中世都市奈良における白毫寺の葬送活動の具体的な一端を解明できた。一切経会もこうした白毫寺の葬送・供養という宗教活動の象徴的儀礼であったことが結論づけられた意味は大きい。

(2) 上野学園大学日本音楽史研究所での資料調査により、『春日社一切経転読作法』という実際の儀礼次第書を発見した。この資料は厳密に言えば大規模な一切経会の中の一部の作法に関するものであり、春日社一切経会に勤務した真言宗僧が用いた次第書であったことが明らかになった。これまで春日社一切経会は良く知られてはいたが、個別の儀礼次第書の存在は報告されておらず、これは誠に貴重な成果である。同時に近世の資料ではあるが『住吉太神宮一切経会当日式』も見出した。

(3) 龍谷大学図書館での資料調査によって、島田乾三郎という戦前の市井の研究者が残した『一切経書写供養転読史』『一切経供養史料』などの私製の研究ノートを観覧することができ、春日社や白毫寺の一切経会の歴史的位置づけについて見通しを得ることができた。

(4) 高野山大学密教文化研究所での資料調査によって、南都仏教と縁が深く白毫寺でも兼学されていた真言宗における、春日信仰の実態を知ることのできる貴重な資料を多く見出せた。中世春日社の一切経会に奈良の真言僧が深く関わっていた事実からも、真言僧の春日信仰は予測される所であったが、中世の真言宗では、特に「安祥寺流」において、その信仰に顕著なものがあることが仔細に判明した。『春日大明神尊像図』や『興雅親翰春日折紙』などは殊に興味深い内容を持つものであった。

(5) これらの各所における調査によって、見出した資料を分析し、その成果として学会等で研究発表を行い、また論文等を作成した。具体的には以下に記す。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

船田淳一、古代・中世における 穢れ 研究の現状と課題 「領域間対話」に向けた準備 作業として、宗教民俗研究、査読なし、27号、2017年、pp52 - 70

船田淳一、日本文化と自然環境、金城国語 日本文化、査読なし、93号、2017年、pp7 - 24

船田淳一、法華経儀礼の世界、アジア遊学、査読なし、202号、2016年、pp41 - 58

船田淳一、『愛宕地藏物語』の基礎的考察、越境する絵ものがたり、査読なし、1号、2016年、pp35 - 45

船田淳一、平安末期宗教思想史と西行伊勢とは西行にとって何だったのか、西行学、6号、査読あり、2015年、pp51 - 71

[学会発表](計6件)

船田淳一、中世真言宗における春日信仰について、日本宗教学会 2017 年度大会、2017年9月16日、東京大学(東京都)

船田淳一、日本中世の 穢れ 観念をめぐ

って、日本宗教民俗学会 5 月例会、2016年5月14日、大谷大学(京都府京都市)

船田淳一、南都律僧清算の舍利信仰と戒学をめぐって、中世史研究会 6 月例会、2016年6月24日、愛知県産業労働センター(愛知県名古屋市)

船田淳一、伊勢における西行の思想と信仰をめぐって、仏教文学会 2016 年度大会、2016年9月10日、大正大学(東京都)

船田淳一、中世南都の神仏習合と天照、仏教史学会 2016 年度大会、2016年12月03日、大谷大学(京都府京都市)

船田淳一、中世の白毫寺における経供養儀礼について、日本宗教学会 2015 年度大会、2015年9月6日、創価大学(東京都八王子市)

[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者 船田淳一(Funata, Junichi)
金城学院大学・文学部・准教授
研究者番号：90571951

(2) 研究分担者 ()

研究者番号：

(3) 連携研究者 ()

研究者番号：

(4)研究協力者 ()